

教員名

辻本 千春

城崎活性化プロジェクト

地域活性化型
NPO団体
その他(学会)

城崎温泉旅館経営研究会・大将様のレクチャー
(城崎温泉の概要、コロナ禍での取組みと現状)



企画・活動概要

日本観光研究会関西支部のNPO観光力推進ネットワーク・関西の「城崎活性化プロジェクト」の『城崎温泉視察』と『城崎活性化プラン発表会』に参加して、城崎を事例にまちづくりを学びました。

1. 『城崎温泉視察』

- ・実施日 2020年12月13日(日)12時現地集合、17時現地解散
- ・参加者 学連協学生15名(流通科学大学他4大学)、同行理事3名
- 12:00 城崎駅集合後、旅館予約案内所へ移動
- 12:10~12:30 城崎温泉旅館経営研究会・大将様のレクチャー
(コロナ禍での取組みと現状)
- 12:30~13:15 各自昼食
- 13:15~13:45 街並みを観察しつつ西村屋招月庭まで移動
- 13:45~14:30 西村屋招月庭 見学(見学交渉中)
- 14:30~15:00 城崎国際アートセンター見学(先方了承済み)
- 15:00~17:00 自由散策
- 17:00 現地解散



2. 『城崎温泉誘客アイデア発表会』

- ・実施日 2021年3月12日(金)オンライン 12:30~14:30 流通科学大学他4チームが発表
- 城崎関係人口構築委員会委員長大将氏がコメントを行った。

経緯・背景・目的

日本観光研究会関西支部のNPO観光力推進ネットワーク・関西学生部門、学生連絡協議会が企画する「城崎温泉視察」と3月に行われた「城崎温泉誘客アイデア発表会」に参加しました。

城崎温泉は、有馬温泉は人気知名度では負けておりますが、観光客数(宿泊+日帰り)では有馬温泉を超えています。その温泉地が、コロナ禍でインバウンド客が来なくなり、温泉地の一時期閉鎖等もあり、非常に厳しい状況が続いているため、学生目線で活性化のアイデアを出し合うというプログラムです。

視察はコロナ禍で日帰り視察であったが、上記のスケジュールでしっかりと城崎の現状を学んだと思います。

取り組む課題

温泉地としての現状や、まちの課題を聞き、新しい取り組みとしての城崎国際アートセンター視察、自由視察等を通して課題解決の方法を検討した。



本学(学生)の役割

城崎国際アートセンター
講演と視察風景



活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

城崎は1度しか行けませんでした。資料情報からテーマを見つけ、①ワーケーション、②商品ブランド力向上、③テーマパークKINOSAKI構想、について発表しました。

①は今新しい働き方生き方として注目されてきている、リゾート地で頭を休めながら仕事も行う考え方の提案です。

②は「温泉地ブランド」としては、城崎温泉は非常に有力ではありますが、関係する商品ブランドとしては食に関する「カニ」「但馬牛」が有名ではありますが、各店で扱う商品を分析するとそれに続くものが弱い点が分かりました。そこで、「麦菓細工」「スイーツ」をブランド化することを提案しました。

また、③は考え方ですが、城崎温泉をテーマパークと見立てて、園内の自動車の通行を禁止して、パークアンドドライブや、周遊する電気自動車等を活用することを提案しました。今回は2年生の後半でしたが、これをきっかけに新しい調整を期待します。



指導教員および関係者の紹介

人間社会学部
観光学科
教授
辻本 千春



今回の『城崎活性化プロジェクト』の企画には多くの関係者の皆様にお世話になっております。今後ともよろしくお願ひします。